◇ 巻 頭 言 ◇

右肩上がりの日本分析化学会を目指して…

岡　田　　哲　男

日本分析化学会会員の皆様，明けましておめでとうございます。2019 年も皆様にとって良い年であることを祈念致します。年頭に際して今後の日本分析化学会の活性化，学会が進むべき方向性について私の考えを述べさせていただきます。

理事会，執行部では，会員減少が本会の活動における主要な問題点の一つであることを認識し，その対策について継続的に議論してきました。現在全体数の変化だけからでは読み取れない会員減少要因の解析を鋭意進めており，その結果いくつかのことが明らかになってきました。本会の半数以上は産業界の会員であると度々公言してきましたが，ここ数年についてこれは当てはまっていません。会員減少に占める産業界会員の割合が高く，その結果産業界会員数は既に全会員数の半分を割り込んでいます。また，産業界会員の年会への参加率が低く，産業界が本会および本会主催のイベントに魅力を感じていないことがうかがえます。特に産業界若手人材を本会およびイベントに呼び込むことが会員減少を食い止め，学会を活性化するためには重要です。数年前から年会と討論会で開催している産業界シンポジウムと産業界 R & D 紹介ポスターでは，分析化学が関(かか)わるホットな話題が取り上げられ，多数の参加者を集めています。この取り組みは，産業界会員間のネットワークを広げ，情報交換の場を提供していますし，学生と企業との接点としても機能しつつあります。この活動の継続は若手産業界人に本会の魅力を伝えることにつながると期待しています。一方，多くの方から本会 HP は魅力が乏しく，インフォーマティブでないと，厳しいご指摘をいただいています。これも産業界の会員へのアピールが低いことと関係しているようです。HP が，会員はもちろん，非会員への情報提供の場としても機能し，会員増加につながるよう現在大幅な改訂を進めています。近日中に新しい HP が立ち上がりますので，さらなる改善の提案をお願いします。

日本分析化学会は学術団体として，学術，学理，学問としての分析化学を尊重するのは当然です。同時に分析化学に関わる人達が他分野から高く評価されるよう支援していかなければなりません。そのためには，分析化学会関係者が広い意味で大きな業績を残せるような方向性を示し，それを実現する土台を作らなければなりません。これが大学や国立研究機関だけでなく，企業における分析化学の立場を強め，学会全体の活性化につながります。そのためには従来からのディシプリンを守りつつ，世間からの注目度が高い分野にも「分析化学」の研究者や企業が入っていく道筋を示し，適切な誘導をするとともに，その中で産業界と官・学界を取り持つ役割を本会が果たすべきであると思います。このような観点から，SDGs，Society5.0，量子など，今後数年から十年程度の間，科学と技術に対する投資が期待できる枠組みに本会が関わることも重要です。「分析化学」をキーワードに具体的に我々がすべきことを考えていきたいと思っています。

私の会長任期は後数ヶ月です。任期中十分に本会の改革を進めることはできなかったのは残念ですが，方針を次期執行部に引き継ぎ，会員の皆様に明るい未来への道筋を提示したいと考えています。

〔Tetsuo OKADA，東京工業大学理学院，日本分析化学会会長〕